

# 平成23年度病虫害発生予報第10号

平成23年12月8日  
鳥取県病虫害防除所

## 予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	発生時期	予想発生量
野菜	ラッキョウ	白色疫病	平年並	平年並
	イチゴ	うどんこ病	平年並	平年並
		灰色かび病	平年並	平年並

## 気象予報（抜粋）

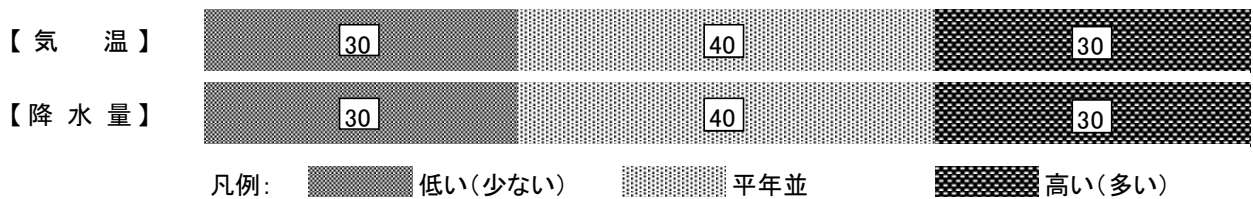
1か月予報（12月3日～1月2日：12月2日、広島地方気象台発表）

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

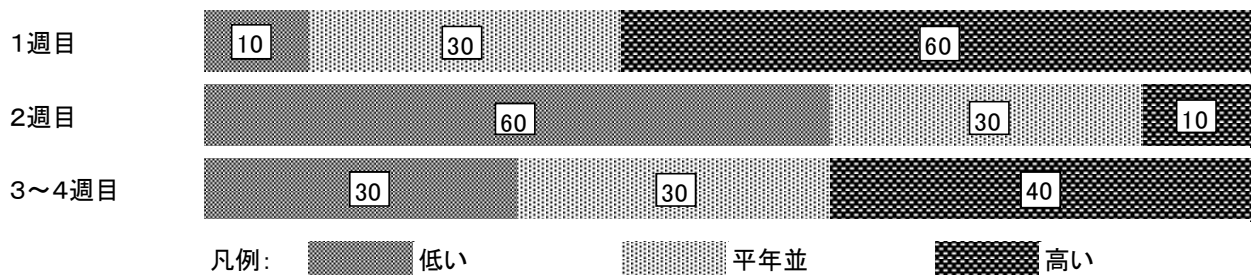
平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は気温が高く、2週目はかなり低くなる可能性があり、期間の前半は気温の変動が大きいです。

### <向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



### <気温経過の各階級の確率(%)>



## 野菜

### [ラッキョウ]

#### 1 白色疫病

##### (1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

##### (2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、県東部及び中部の現地調査ほ場における発生量は平年と比べてやや少ない。

イ 前年の発生が多かったことから、土壌中の病原菌密度は高いと考えられる。

ウ 本病は、晩秋から初春の連続降雨や積雪により発病が多くなる。

エ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想されるが、今後の降雪状況によっては多発する可能性があるので注意する。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場の排水対策とともに、年内の薬剤防除を徹底する。

イ 薬剤防除は、発病前からの予防散布が効果的である。12月中～下旬にはリドミルMZ水和剤500倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液などを散布する。

ウ 1～2月の連続降雨後及び雪解け時に、リドミルMZ水和剤500倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液などを追加散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一成分の薬剤の連用は避ける。

### [イチゴ]

#### 1 うどんこ病

##### (1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

##### (2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発後の防除は難しいため、予防防除に重点を置く。薬剤は、表1を参考に使用する。

イ 既に本ほ場で発生している場合は、薬剤を3～5日間隔で薬剤を替えて散布する。その後、病徴の進展が抑制されれば、7～10日間隔に戻す。

ウ ストロビルリン系の薬剤は、浸透性を高める効果のある展着剤と混用すると薬害がでやすいので、これらの展着剤は加用しない。

エ EBI剤を使用する際は、カリグリーンなどを混用すると効果が高まる。

オ 薬剤防除は、葉の裏や芽の間にも薬液がよくかかるように、丁寧に散布する。

カ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴうどんこ病の主要防除薬剤

農薬系統分類	薬 剤 名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数	効果	
					予防	治療
無機硫黄	硫黄粒剤	6～16 g /2000m <sup>3</sup>	—	—	○	
	イオウフロアブル	500～1,000倍	—	—	○	
有機銅	サンヨール	500～1,000倍	6	前日	○	
アズリノピリミジン系	フルビカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日	○	
	フルビカくん煙剤	50g/500m <sup>3</sup>		前日	○	
グアジジン系	ベルコート水和剤	4,000倍	2	前日	○	
	ベルコートフロアブル	2,000～4,000倍		前日	○	
グアジジン系・ヒドロキシアニリド系	ダイマジン	2,000倍	2	前日	○	
アズライト系	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日	○	
ストロビルリン系	アミスター20フロアブル	1,500～2,000倍	3	前日	○	○
	ストロビーフロアブル	3,000～5,000倍	3	前日	○	○
E B I 剤	ラー水和剤	4,000～8,000倍	3	前日	○	○
	ルビゲン水和剤	4,000倍	3	前日	○	○
	バイコラル水和剤	5,000倍	3	前日	○	○
	トリフミン水和剤	3,000～5,000倍	5	前日	○	○
	トリフミンジェット	50 g /400m <sup>3</sup>		前日	○	○
	スコア顆粒水和剤	2,000倍	3	前日	○	○
	ハンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	2	前日	○	○
	ハンチョTFジェット	50g/400m <sup>3</sup>		前日	○	○
キノキサリン系	モレスタン水和剤	3,000～4,000倍	2	前日	○	○
脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤	300～600倍	—	前日		○
無機化合物	ジーファイン水和剤	750～1,000倍	—	前日	○	○
	カリグリーン	800～1,000倍	—	前日		○
	ハーモメイト水溶剤	800～1,000倍	—	前日		○

## 2 灰色かび病

### (1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

### (2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在の発生量はやや少なく、発生が多くなるのは平年並の3～4月頃と予想される。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 枯葉や病果は早めに除去する。

イ 하우스内が20℃前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上の灌水は避ける。

ウ 薬剤防除は、表2を参考に各薬剤を7～10日間隔で輪番散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の主な防除薬剤

農薬系統分類	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
有機銅	サノール	500倍	6	前日
アニリビ°リジソン系	フルビ°カフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
	フルビ°かくん煙剤	50g/500m <sup>3</sup>		前日
ジカルボ°キシミト°系	ロフ°ラール水和剤	1,500倍	4	前日
	ロフ°ラール500アケア	1,000～1,500倍		前日
	ロフ°ラールくん煙剤	100g/300～400m <sup>3</sup>		前日
	スミレックス水和剤	2,000倍	3	前日
	スミレックスくん煙顆粒	6g/100m <sup>3</sup>		前日
アキライト°系	カンタスト°ライフロアブル	1,000～1,500倍	3	前日
	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日
ストロビ°ルリン系	アミスター20フロアブル	1,500倍	3	前日
フェニル°ロール系	セイビ°アフロアブル20	1,000～1,500倍	3	前日
フェニル°ロール系・ヒト°ロキシアニト°系	ジ°ヤストミト°顆粒水和剤	2,000～3,000倍	3	前日
グ°アニジソン系	ヘルケートフロアブル	2,000倍	2	前日
グ°アニジソン系・ヒト°ロキシアニト°系	タ°イマジソン	2,000倍	2	前日